

もしもに備えて ~AEDを使えますか~

まちで、職場でAED（自動体外式除細動器）を見かける度に「使い方がわからない…」「まさか自分が使う？」そう考えたことはありませんか？

しかし、私たちはいつ、どこで事故に遭遇するかわかりません。目の前に倒れた人を助ける救命のリレーは市民から始まるのです。

今回のシリーズ「前へ ~go ahead~」はAEDをはじめとして、私たちができる救命処置について考えます。

1 反応をみる

「もしもし、大丈夫ですか？」の呼びかけに反応があるか確認。



5 人工呼吸

※人工呼吸は可能ならばよい

気道を確保し胸のふくらみを確認しながら行う。



2 119番通報とAEDの準備を

周囲の応援を呼び、分担して通報やAEDを用意してもらう。



6 AEDの電源を入れる

※フタをあけると、自動で電源が入る機種もあります

右写真のとおりパッドを貼り、準備する。



※貼る位置はパッドに図で表示



3 呼吸を確認

呼吸をチェック。胸と腹部の動きを見て確認。



7 電気ショック

AEDが自動的に心電図を分析するので後は音声通りに行う。



4 心臓マッサージ

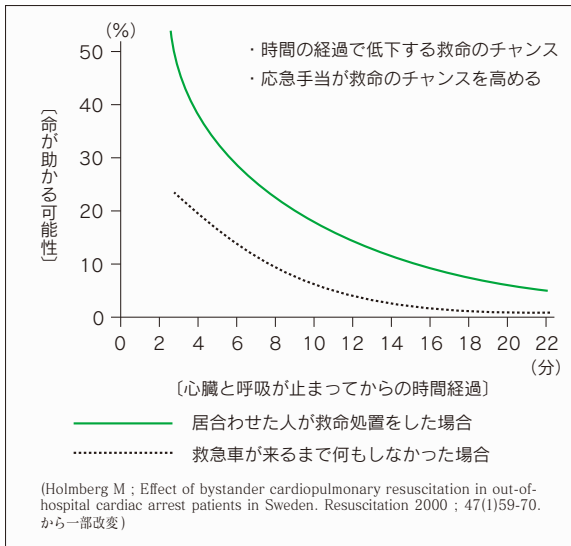
※最も重要な手順です

呼吸が無ければ心臓マッサージを行う。両手は胸の中央に、絶え間なく深く（5センチ沈む程度）速く（1分間に100回程度）行う。



救命リレー、
第1走者は
あなたです





応急手当と救命曲線

AEDが一般市民に広く使われるようになり、対馬でも設置が進みました。心疾患の多くは心室細動という筋肉のけいれんが原因で全身に血液を送ることができず、呼吸が止まります。これに電気ショックを与えて心臓の機能を取り戻すのがAED。もちろん絶対ではありませんが、その効果は期待されています。また、心筋梗塞などといった心臓の病気だけでなく、けが・海で溺れた・熱中症で倒れた…など呼びかけに反応しない・意識がなく呼吸をしていない場合な

助かる確率は1分間に10パーセントずつ低下
消防士になって30年が過ぎました。仕事柄、家族が急に倒れたという連絡を受け、救急車で現場に駆けつけたことが何度もあります。しかし、その多くは何の処置もできず、ただ

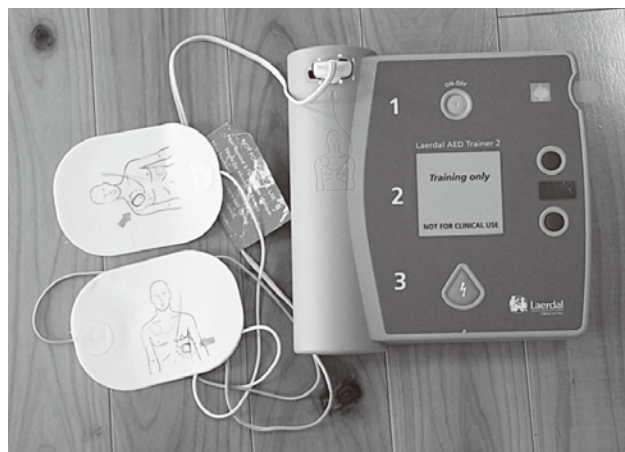


対馬市消防署
救急救命士 井 浩さん

呆然としているケースがほとんどです。「家族や周囲が、何らかの救命処置をしていれば助かったのかも…」そう思うこともありました。
対馬で119番通報から救急車が現場に到着するまでの時間は平均10分。遠い地区では30分以上を要するところもあります。一方、心肺停止から1分ごとに救命率は約10パーセントずつ下がります。市民のみなさんの確かな手当は、命を救うために秒単位で欠かせないのです。

意識が無ければAEDを

ようになり、対馬でも設置が進みました。心疾患の多くは心室細動という筋肉のけいれんが原因で全身に血液を送ることができず、呼吸が止まります。これに電気ショックを与えて心臓の機能を取り戻すのがAED。もちろん絶対ではありませんが、その効果は期待されています。また、心筋梗塞などといった心臓の病気だけでなく、けが・海で溺れた・熱中症で倒れた…など呼びかけに反応しない・意識がなく呼吸をしていない場合な



ど様々な場面で使えます。
ただし、「AEDさえあれば大丈夫」という認識は危険です。AEDは心室細動による心停止の場合です。すべての心停止に反応するわけではありません。その場合AEDは作動しませんので、心臓マッサージや人工呼吸を先に施す必要があります。

**講習会に参加して「いざ」の事態に
勇気を持って対応してほしい**

電気ショックというイメージから、AEDを使うことに責任やためらいがあるかもしれません。しかし、実際に使ってみると、音声ですべて案内してくれま

家族が倒れた時、後悔しないためにも、AEDを含めた講習会にぜひ参加してください。
講習は消防署・出張所でも実施していますし、要請があれば私たちはどこへでも駆けつけます！

内してくれま。電気ショックが必要でない場合も、必要な場合も、AEDの指示に従えばよいのです。「いざ」と言う時のためにも、私たちはみなさんが、講習を受けてくださることを一番にお願いしたいのです。1回でも講習会を受けていれば、手当を施すことができるはず。消防署の通信指令室から私たちが口頭指導しながら救命リレーも可能です。



県内で…

諫早市森山町で、ソフトボールの試合中、左胸に死球を受けた小学6年生が心肺停止に。

たまたま観戦中で居合わせた、救急救命士と看護師が心臓マッサージや人工呼吸を行う。

救急車でAEDを施し、小学生は助かった。

芸能人も…

お笑いタレントの松村邦洋さんは、東京マラソン出場中に心筋梗塞を発症し心停止に。

すぐにAEDなどによる救命処置が行われたことで助かった。現在もテレビで活躍中。

AEDの役割が広く浸透する出来事にもなった。

AEDを使った救命処置で助かった事例

対馬で…

60代の男性が自宅で心肺停止状態に。

関係者がAEDで電気ショックを3回実施して心拍再開する。近くの診療所でルート確保後、いづらはら病院へ搬送。現在社会復帰している。

60代の男性が重度の急性心筋梗塞で倒れる。

救急車でAEDによる電気ショックを行い1回で心拍再開。中対馬病院のドクターが同乗しルート確保。いづらはら病院到着後にさらに電気ショックを2回行った。

現在は社会復帰している。



設置場所が一目でわかるパンフレットができました

対馬島内の避難所・AEDの設置場所が掲載されていますのでご覧ください。

地域ごとに広報つしま4月号と一緒に配布しています。



消防格納庫への設置について

医療機関から遠い地区でAEDが未設置だったり、学校など夜間施錠された施設への設置が多いことから、救急車到着まで10分以上かかる地区の消防格納庫にAEDの設置を進めています。



講習会を受けて、自信と勇気を!

<受講者体験談>

講習を受けたことで一歩踏み出せる勇気が出ました

施設にAEDが設置されたけれど「使ったことがない」「利用者のみさんの緊急事態に役立てたい」ということから、今年3月に職員向け講習会を開きました。心肺蘇生やAEDの使い方など3時間の講習内容は大変有意義なものでした。AEDの操作は思っていたより簡単で、すべて音声ガイドしてくれるので安心です。あとは落ち着いてその通りにやるだけです。

島内でも、学校や、ショッピングセンターなど様々な場所でAEDの設置が進んでいます。私をはじめ、この施設でも職員全員がマスターして、「いざ」というとき、地域や家庭で生かせるようになりたいと思っています。一歩を踏み出せる勇気のためにも、今後も講習を受けていきたいです。



社会福祉法人・米寿会 対馬老人ホーム
主任生活相談員 小島 拓弥さん

救命講習の依頼やお問い合わせは消防署へ

◎普通救命講習（受講時間：3時間）

人工呼吸・心臓マッサージ・AED（自動体外式除細動器）の取扱い・大出血時の止血法などを実習します。

◎救急法（受講時間：1時間～2時間）

人工呼吸・心臓マッサージ・AED（自動体外式除細動器）の取扱い

土曜・日曜の場合は、少人数でも対馬市消防署及び最寄りの出張所でも受講可能です。
また業務の都合で日程を変更することもありますので、予め電話で受講可能の有無をお問い合わせください。

対馬市消防署 ☎0920 (52) 0119